

# 2021年度 賃金確定闘争始まる

## コロナ禍であっても 大幅な賃金の引き上げを!



**北多摩西ニュース**

**No.5**

国分寺市光町1-40-12  
Tel 042-576-1161(代)  
Fax 042-575-0529  
E-mail: kitanisi@crux.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://kitanisi.org/  
東京都教職員組合  
北多摩西支部情宣部

**全教職員配布**

### 批准投票 10月11日(月)~15日(金)

投票用紙は各分会に支部から直送します。投票後直ちに以下の職場または事務所に届けてください。

#### <提出先>

府中	支部、地区協事務所または四中または白糸台小
国分寺	一中または支部事務所
国立	二中または支部事務所
立川	新生小または支部事務所
昭島	瑞雲中または支部事務所
東村山	八坂小または支部事務所
東大和	五小または支部事務所
武蔵村山	四中または支部事務所

#### <主な要求項目>

1. 全ての職員の生活改善につながる賃金引き上げ
2. 会計年度任用職員の処遇を常勤職員と同一に
3. 再任用職員の賃金水準を引き上げ
4. 定年延長については労使交渉事項として対応せよ

### 統一行動予定 11月中旬

来月の支部委員会11月2日(火)で報告します

一昨年末から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で、多くの会社、企業が停滞しました。国や都は雇用調整助成金、持続化給付金などの緊急財政支援に迫られました。その影響で今年の人事委員勧告は、人事院に引き継いでマイナスになる恐れがあります。しかしここ5年間、官民格差がありながらもベースアップをしてこなかった責任は重大です。従って人事委員会を要請を例年以上に強める必要があります。9月末現在で要請署名は

都で5753筆になりました。すべての教職員が安心して生活できるように賃金を要求します。今後の賃金確定の予定は左記の通りです。

### 人事異動&パワハラ

今年は、例年なく人事異動に関する相談が増えています。その多くは管理職によるパワハラが原因です。

- ・希望もしないのに異動を強要される
- ・異動を希望しているのに拒否される…

等です。納得いかない場合は一日も早く支部事務所へご連絡下さい。

電話 042-576-1161

#### 学校の窓

「せんせい、あのね、くさはらこうえんへいったよ。りなちゃんとおそんだよ。あつくなつたからマスクとっちゃった。ないしょだよ。なんかいいにおいがしたよ。はしるとき、りなちゃんとして(手)もつないじゃった。」

▼「いい匂いは、金木犀の花の香りだよ。秋が来るしるしだね。りなちゃんの手は、温かくて柔らかかったかな?」

▼「その後、手を石鹸で洗って消毒しましたか。」なんて書けません…。

▼手を繋ぐと、温かさがじんわり伝わって気持ちがいい。背中に擦ってもらうと安心します。寝められながら、頭を撫でてもらうと嬉しさが全身に広がります。友達と肩を組むと、仲間だなんて思っています。一緒に大きな声を出したくなります。▼匂いを感じ触れ合う中で、柔らかな心のひだに沢山の優しさや成長の種を埋め込んできた子どもたち。コロナ禍で、奪われてはならないものの一つです。

(M・S)

# 特別支援教育のレベルダウン反対 「緊急署名」にご協力を11末月まで

## 障害児教育から特別支援教育へ

一九九七年、今まで障害児教育と呼ばれてきたものが、突然「特別支援教育」と言われるようになり、その対象は障害児ではなく広く「特別に支援が必要な児童・生徒」となりました。

当時、その実質的な担い手は「通級指導学級」でした。その「通級指導学級」は固定の「特別支援学級」よりも学級数が少なく児童・生徒は自分の学校（在籍校）からほかの学校へ通う形式でした。この「通級指導」を希望する児童・生徒の人数はうなぎのぼりでした。【表参照】

この、児童・生徒が通う通級のシステムから、教員が児童・生徒の在籍校に巡回するシステムに変わったのが、特別支援教室のシステムです。

拠点校と言われる学校を中心に二〜四校程度を一つのグループとして

一九九七年、今まで障害児教育と呼ばれてきたものが、突然「特別支援教育」と言われるようになり、その対象は障害児ではなく広く「特別に支援が必要な児童・生徒」となりました。

当時、その実質的な担い手は「通級指導学級」でした。その「通級指導学級」は固定の「特別支援学級」よりも学級数が少なく児童・生徒は自分の学校（在籍校）からほかの学校へ通う形式でした。この「通級指導」を希望する児童・生徒の人数はうなぎのぼりでした。【表参照】

この、児童・生徒が通う通級のシステムから、教員が児童・生徒の在籍校に巡回するシステムに変わったのが、特別支援教室のシステムです。

拠点校と言われる学校を中心に二〜四校程度を一つのグループとして

行に進めています。特別支援教室の教育を後退させないために署名にご協力ください。

【表】特別支援教室利用児童数(小学校)と、全児童数に占める割合

年 度	利用児童数	増加数	全児童数( )に対する割合
2016(平成28)「支援教室」導入開始	9,442名	+2,252名	1.7%(565,145名)
2017(平成29)	12,949名	+3,507名	2.3%(572,625名)
2018(平成30)「支援教室」全校設置	16,875名	+3,926名	2.9%(580,786名)
2019(令和元)	19,459名	+2,584名	3.3%(586,114名)
2020(令和2)	21,707名	+2,248名	3.7%(590,289名)

北多摩西支部・障害児学級部 共催

## 東京の特別支援教育ってどうなっているの？

～障害などの困難を抱えた子どもを理解するために大切にしたい視点～

と き 10月22日(金) 18:30~20:15

と ころ 北多摩西教育会館  
(国立駅北口徒歩5分)

講 師 山下 洋児さん  
(元障害児学級部部長、法政大学兼任講師)

※どなたでも参加できます

「特別支援学級」と「特別支援教室」の違いを知っていますか？

意外と知られていない東京の特別支援教育の実情を学び、また、「通常学級」でも生かせる視点や実践についても山下さんの多くの実践の中から紹介してもらいます。

毎日の実践に生かされます。ぜひご参加を。



Zoomでの参加も可能です。ID やパスコードは、北多摩西支部ホームページに10月20日(水)に掲載します。

北多摩西支部 Tel.042(576)1161